

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2019年10月)

1 概要

【内政】

●10月24日、世論調査機関Factum社が大統領選挙直前の投票動向調査結果を公表したところ、各党大統領候補に対する支持率は、与党FA・マルティネス候補(40%)、野党国民党・ラカジェ・ポウ候補(28%)、野党コロラド党・タルビ候補(13%)、野党カビルド・アビエルト党・マニーニ・リオス候補(11%)となった。

●10月27日、大統領選挙第1回投票が行われたところ、得票率は与党FA・マルティネス候補(39.01%)、野党国民党・ラカジェ・ポウ候補(28.61%)、野党コロラド党・タルビ候補(12.34%)、野党カビルド・アビエルト党・マニーニ・リオス候補(11.04%)となり、得票第1位の与党FA・マルティネス候補及び第2位の野党国民党・ラカジェ・ポウ候補による決選投票進出が決定した。

●コロラド党タルビ候補及びカビルド・アビエルト党マニーニ・リオス候補は、敗北を宣言し、11月24日に実施される決選投票での国民党ラカジェ・ポウ候補への支持を表明した。

●治安に関する法案のための憲法改正に向けた国民投票は、46.8%で過半数に届かず否決された。

●10月7日、第13部隊基地跡で8月27日に発見された遺体について、DNA鑑定の結果、軍事政権下で拘束・監禁されたエドゥアルド・ブレイエル氏のものであると判断された。

●10月18日、モレイラ・コロニア県知事が女性に対し性的関係と引き換えに研修期間の更新を提供する旨もちかけている音声流出し、同氏はララニヤガ上院議員の派閥及び国民党から離党した。

【外交】

●10月2日、外務省は、アビアンカ航空がモンテビデオ・ボゴタ間の直行便を12月15日から再開する旨発表した。

●10月3日、ベルガミノ外務次官はドガーティ・グアテマラ経済次官(経済統合・貿易担当)と外務省で会談し、ウルグアイ・グアテマラ間の貿易・投資に関する協力の枠組協定に署名した。

●10月9日、パラグアイ政府は声明を発表し、パラグアイ司法が要求するパラグアイ人3名をウルグアイが「亡命」認定したことに不快感を示した。

●10月24日、Google社がカネロネス県のパルケ・デ・ラス・シエンシアスのフリーゾーン内にデータセンターの設置を決めた。

●10月31日、外務省はウルグアイ大統領選挙に関するボルソナーロ伯大統領の発言について、アントニオ・シモエス在ウルグアイ伯大使を呼び出し、説明を求めた。

2 本文

【内政】

1 テレビ討論

10月1日、与党FA(拡大戦線)マルティネス候補対国民党ラカジェ・ポウ候補の間で約1時間半に亘るテレビ討論が行われ、各候補は、「経済」、「治安・共存」、「人間開発」及び「未来」の4項目に関し討論した。マルティネス候補はFAの各項目における功績につき述べたのに対し、ラカジ

エ・ポウ候補はマルティネス候補を批判することに主眼を置き、自らの新政権下でのビジョンを訴えることはほぼなかった。

2 大統領選挙世論調査

(1) Opcion社

10月11日、世論調査機関Opcion社が大統領選挙の投票動向調査結果を公表したところ、主要候補に対する支持率は以下のとおり。

- ア マルティネス候補(与党拡大戦線(FA)):38%
- イ ラカジェ・ポウ候補(国民党):29%
- ウ タルビ候補(コロラド党):12%
- エ マニーニ・リオス候補(カビルド・アビエルト党):14%

(2) Cifra社

10月21日、世論調査機関Cifra社が大統領選挙の投票動向調査結果を公表したところ、主要候補に対する支持率は以下のとおり。

- ア マルティネス候補(与党拡大戦線(FA)):38%
- イ ラカジェ・ポウ候補(国民党):27%
- ウ タルビ候補(コロラド党):11%
- エ マニーニ・リオス候補(カビルド・アビエルト党):10%

(3) Factum社

10月24日、世論調査機関Factum社が大統領選挙の投票動向調査結果を公表したところ、主要候補に対する支持率は以下のとおり。

- ア マルティネス候補(与党拡大戦線(FA)):40%
- イ ラカジェ・ポウ候補(国民党):28%
- ウ タルビ候補(コロラド党):13%
- エ マニーニ・リオス候補(カビルド・アビエルト党):11%

(4) Radar社

10月24日、世論調査機関Radar社が大統領選挙の投票動向調査結果を公表したところ、主要候補に対する支持率は以下のとおり。

- ア マルティネス候補(与党拡大戦線(FA)):43%
- イ ラカジェ・ポウ候補(国民党):24.2%
- ウ タルビ候補(コロラド党):15.5%
- エ マニーニ・リオス候補(カビルド・アビエルト党):9.4%

(5) Equipos社

10月24日、世論調査機関Equipos社が大統領選挙の投票動向調査結果を公表したところ、主要候補に対する支持率は以下のとおり。

- ア マルティネス候補(与党拡大戦線(FA)):36%
- イ ラカジェ・ポウ候補(国民党):25.7%
- ウ タルビ候補(コロラド党):10.3%

エ マニーニ・リオス候補(カビルド・アビエルト党):8.4%

3 大統領選挙(第1回投票)

(1)開票結果

10月27日,大統領選挙第1回投票が行われたところ,開票結果は以下のとおり。得票が最も多かった上位2党である与党FA・マルティネス候補及び野党国民党・ラカジェ・ポウ候補による決選投票が11月24日に行われる。

ア マルティネス候補(与党拡大戦線(FA)):39.01%

イ ラカジェ・ポウ候補(国民党):28.61%

ウ タルビ候補(コロラド党):12.34%

エ マニーニ・リオス候補(カビルド・アビエルト党):11.04%

オ その他政党 5.36%

カ 白票及び無効票 3.63%

(2)敗北宣言及び決選投票でのラカジェ・ポウ候補への支持表明

コロラド党タルビ候補及びカビルド・アビエルト党マニーニ・リオス候補は,結果速報の発表を受け,敗北を宣言した。同時に,11月24日に実施される決選投票でのラカジェ・ポウ候補(国民党)への支持を表明した。

(3)国民投票

治安に関する法案のための憲法改正に向けた国民投票は,46.8%で過半数に届かず否決された。

4 第13部隊基地跡で発見された遺体の身元特定

10月7日,第13部隊基地跡で8月27日に発見された遺体について,DNA判定の結果,軍事政権下で失踪まで軍によって拘束・監禁されたエドゥアルド・ブレイエル氏のものであると判断された。軍事政権下での190人以上の失踪者「desaparecidos」のうち,発見された5人目の遺体となる。2005年にバスケス大統領の指示で提出された軍の報告書では,ブレイエル氏の拘束中の殺害は認識されているも,遺体は焼却されており回収できないとされていたが,調査報告書では,1975年に軍人の手で拘束中に拷問を受けて死亡したと診断された。

5 モレイラ・コロニア県知事の音声流出

10月18日,モレイラ・コロニア県知事が女性に対し性的関係と引き換えに研修期間の更新を提供するともちかけている音声が出た。記者会見で,同氏は研修生とは感情的な関係を維持していたと主張し,権力の濫用を否定した。この事件により,同氏は依然として県知事を続けているが,ララニャガ上院議員の派閥及び国民党から離党した。

【外交】

1 アビアンカ航空ボゴタ直行便の運航再開

10月2日,外務省は,アビアンカ航空がモンテビデオ・ボゴタ間の直行便を12月15日から再開すると発表した。週に4便運航する予定で,需要に応じて毎日1便の運航に切り替える。アビアンカ航空は,ウルグアイで運営する上でかかる費用が高額のため営業が困難として,4月1日に運航を中断していた。

2 ウルグアイ・グアテマラ間の貿易・投資に関する枠組協定に署名

10月3日、ベルガミノ外務次官はドガーティ・グアテマラ経済次官（経済統合・貿易担当）と外務省で会談した。協力を拡大し、貿易及び投資を促進する特定の問題に関するイニシアティブを高める対話メカニズムの設置を目指して、二国間関係を見直し、ウルグアイ・グアテマラ間の貿易・投資に関する協力の枠組協定に署名した。

3 サン・フランシスコ総領事館再設置

シリコンバレーに滞在するソフトウェア部門のウルグアイ人起業家や学生による需要が生まれたため、サン・フランシスコにウルグアイ総領事館がまもなく再設置されることになり、イグナシオ・ゴンサレス氏が総領事に任命された。

4 パラグアイ人3名の亡命認定

10月9日、パラグアイ政府は声明を発表し、パラグアイ司法が要求するパラグアイ人3名をウルグアイが「亡命」認定したことに不快感を示した。同パラグアイ人3名は、17年以上居住していたブラジルで亡命認定を失った後、ウルグアイに到着した。パラグアイ司法は誘拐・強奪の罪で告発しているが、同3名は前述の罪を告白するよう拷問されたと主張し、ブラジルで亡命申請を行った。2019年6月、ブラジルが亡命認定を取り消し、9月27日にウルグアイへの亡命申請をブランカ・リエロ判事が受諾した。10月9日、フィンランドに向けて出発したところ、パラグアイ政府が抗議している。

ニン・ノボア外務大臣は、亡命を認定したのは司法であったこと、国連が高等弁務官を通じてフィンランドへの移動を手配したので、ウルグアイ政府はパラグアイの抗議に対する権限がないと述べた。在パラグアイ・ウルグアイ大使は、パラグアイ外務省に召喚され説明を求められた。

5 北朝鮮と外交関係のある国についての調査

10月17日、ウルグアイ外務省政治局は全在外公館に対し、「北朝鮮と外交関係のある国についての調査」を指示した。

6 Google社データセンターの設置決定

10月24日、Google社がカネロネス県のパルケ・デ・ラス・シエンシアスのフリーゾーン内にデータセンターの設置を決めた。交渉は機密保持契約の下、第二次バスケス政権初期に開始され、2017年にはコッセ前工業エネルギー鉱業大臣が同社を訪問している。ウルグアイに建設されるデータセンターは同社14番目のデータセンターとなり、ラテンアメリカではチリに次いで2番目のセンターとなる見込み。

7 在ウルグアイ伯大使の呼び出し

10月31日、外務省はウルグアイ大統領選挙に関するボルソナーロ伯大統領の言及について、アントニオ・シモエス在ウルグアイ伯大使を呼び出し、説明を求めた。

【要人往来】

○往訪

13日～17日 ニン・ノボア外務大臣及びバツソ厚生大臣のカザフスタン訪問

28日～11月18日 ベネッチ農牧水産大臣の中国、モンゴル、ベトナム訪問

○来訪

3日 ドハティ・グアテマラ統合貿易副大臣(貿易・投資に関する枠組み協定署名)

(了)